

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079500148		
法人名	有限会社グループホームひまわり		
事業所名	有限会社グループホームひまわり		
所在地	福岡県田川郡糸田町4143-1		
自己評価作成日	令和5年10月18日	評価結果確定日	令和5年12月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が自分のペースで不自由なくのびのびと生活できる空間をつくりスタッフと一緒に苦楽を分かち合っている。一人一人に合った個別の支援に努め無理のなく安全に過ごせる日常生活を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

朝夕のミーティングやカンファレンス時に理念の唱和を継続し、心新たにケアに臨んでいる。簡潔で具体的な介護計画を作成し、かかりつけ医からの指示など重要な連絡事項は申し送りやタブレットで共有し、エアマット導入、食事介助などで半年で褥瘡が完治した入居者もあり、病院側から言葉をかけられるまでになっている。入居者の思いに寄り添う見守りやトイレ誘導、夜間のポータブルトイレ使用で退院後の放尿や夜間の不穏が無くなり、1ヶ月半でほぼ元の生活になった入居者もある。運営推進会議は書面で報告し意見をお願いしているが、Lineによる細かな報告は家族に好評で、自家発電の備えもあり、地域密着型サービスとして住民の避難受け入れを申し出ている。何より理念をそのままに、職員の明るい挨拶に入居者も笑顔で応える暮らしが継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グロック1／有限会社グループホームひまわり**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に提示して朝、夕のミーティング時を活用し全員で唱和している。又、振り返り等出きている。	開所以来、朝夕のミーティングやカンファレンス時に理念の唱和を継続し、心新たにケアに臨んでいる。調査日も理念をそのままに、職員の明るい挨拶に入居者も笑顔で応えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染が流行して以来、電話や書面等のやりとりに留まっている。フェンス超しではあるがご近所の方と世間話等している。	裏のフェンス越しの日向ぼっこは、近所の方や小学生と会話が弾み、交流の場となっている。4年ぶりの神幸祭の神輿が例年になく長くホーム前の駐車場で練り、涙を流す入居者もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスにより交流会は中止になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より会議の開催は無いが資料や議事録を送付し意見や行事等のお知らせをしている。	定期的にホームの状況や行事などの議事録を、運営推進委員や全家族に送付している。必ず返信をお願いしているが、特段の意見はない。議事録は玄関で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回運営推進会議を開き情報の交換をしている。	担当課に入退院の報告、感染症対策や職員募集など様々な事柄を相談したり、地域包括支援センターから入居の相談を受け入居に至ることもあり、日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、ケアマネージャー、スタッフ全員で取り組んでいる。動画配信やリモート等を活用し正しく理解する様に努めている。又、4年ぶりに研修が開催されスタッフはほぼ参加出来た。	玄関は施錠せず、動画配信やリモート研修にホーム全体で参加し、身体拘束ゼロに取り組んでいる。夜中に活動したり外出しようとする方には思いに寄り添ったり共に外出したり、夜ベッド下に寝る入居者は風邪をひかないように配慮しているため、センサー設置はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、スタッフは虐待についても動画配信の研修を受け虐待の無いホームをつくっている。身体拘束廃止委員会は開催出来ないが2カ月に1回議事録を各関係者に送付し意見を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍においてなかなか勉強会、研修と中止になっている。動画配信等あれば活用していきたい。	成年後見制度の資料を玄関に整備し、入居時家族に説明しているが、制度の活用はない。今後は日常生活自立支援事業の資料を整備し、制度との違いについて研修予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書は渡しゆっくりと目を通して頂いている。分からない事などは契約時、又その都度説明し理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書を読んでもらい入居時に再度説明している。入居者の状況は電話や訪問時に話している。	電話やホームへの来訪時にホームでの暮らしぶりが想像できる様に具体的な連絡や報告を行い、家族の意見を伺っている。Lineの活用で細かな事も報告でき、家族に好評であるが、運営に関する特段の意見はない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕のミーティング又、その都度気軽にスタッフが発信できる様にし対応している。	全員参加のミーティングを1～2ヶ月に1回開催している。2年前、記録時間削減の為に導入したタブレットは、記録しやすい項目の追加の要望があり、飲水の項目や摂取量の選択肢を増やし、1年前から使いこなしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢や家庭環境、技術力等配慮しつつ対応している。又、処遇改善加算やベースアップ支援金等取り入れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時に特に制限している条件などは無い。本人が習得しようとしている資格などは出来る限り支援している。	夜勤専従を含め、20代から70代の男女の職員が夫々の状況に応じて勤務している。職員関係が良好でユニットを超えたチームケアが展開している。資格取得や研修参加の支援もあり、1年前にハローワークを通じて入職した職員は、安全安楽な支援の指導を受けるのがありがたいと話し、資格取得も目指している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	その都度、又はミーティング時に説明。パーソンセンタードケアの充実に努めている。	管理者は、不適切な言葉掛けや支援はその場で注意している。問題行動も「何故その行動になるのか」と考え、その時の入居者の思いに寄り添うと自ずと対応の仕方が見えてくると、管理者は話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強しているなど参加は推奨している。オンライン研修なども活用している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染症が流行して以来色々な面で交流や勉強会などが中止になっていたが4月より事業所会が少しずつ活動を再開している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に本人や家族と面談し色々聞き取りし説明もしている。細かい部分については本人に聞きながらケアしている。又、病院より直接入所される方は病院に了承を得て面会している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を踏まえて細かい所まで聞き取りしその都度対応している。又、ホーム内で出来る事、困難な事なども話す様にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心配事や不安は早期に解決出来る様に本人の状態を見極めより良い生活が出来る様に提案したりよく話し合いをしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がスタッフに対し配慮する事なく発言できる雰囲気作りをしている。例えばつまりたスタッフに「気を付けないとこけるよ」等の会話がいつもある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の報告や本人の希望を話し合ったり家族の協力の大切さスタッフとの関係づくりに積極的取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や過去の教え子の方の訪問や電話や手紙等の支援をしている。又、昔から利用されている美容室へ出かけたり宗教関係の仲間の訪問もある。訪問時は事前に連絡をお願いしている。	事前連絡で面会室での面会を支援し、家族の自宅で食事をと希望に応じて外出を支援している。所持している携帯電話で時間に関係なく頻回に電話をかける入居者もあり、家族と関係継続の支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに声掛けあって廊下のソファに座り音楽を聴いたりおしゃべりされている。それぞれの身の上話をされたり、困っている時は手伝う等よい関係が築かれている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を頂いたり返事を返したりしていたが最近はそのそれぞれの方が高齢となり途絶えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の確認の難しい方は生活状況や本人の立場に沿って暮らしがより良いものになるよう検討している	フェースシートに生活歴や好きな物事等の詳細な情報を整備し、意思の表出が容易でない入居者にも声をかけて意向を確認している。居室環境の細かい変化や行動の背後には思いがあることを常に意識し訪室するように、ケアマネジャーは指導している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症が進行してもそれまでの生活ペースや環境が変化しないように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	交わりや情報収集にて現状の把握には特に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には課題や情報を話し合い生活における支援について話し合っている。	申し送りやミーティング時に職員の記録やモニタリング結果を話し合い、簡潔で具体的な介護計画を作成している。かかりつけ医や訪問看護と連携し家族と話し合いながら、エアマット導入や食事介助などで半年で褥瘡が完治した入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入したりケアマネージャーとして情報を提供している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団、個人の支援を取り入れその都度希望や要望を聴き状態に沿ったサービスに取り組んでいる。又、車椅子や車の貸し出し等にも応じている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症が5類に移行し習い事を再開しているので習字をまた始め支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に希望を聞いている(救急時の対応など)基本的にかかりつけ医の変更はしない。最近の受診時には必ず行くようにしている。	受診サマリー用紙を活用し、初診時や状態変化時はケアマネージャーが必ず同行し、報告や相談をしている。かかりつけ医からの指示など重要な連絡事項は申し送りやタブレットで共有した適切な受診の支援となり、病院側から言葉をかけられるまでになっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調や食事の摂取量、受診時の検査結果の報告など一人一人に合わせて対応している。又、急変時の受診等、病院への連絡など連携出している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市立病院や町立病院とはケアワーカーだけではなく病棟のナースとも情報交換のやり取りができるようになってきた。近年はドクターとも直接はなせる環境になってきている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	相談したことを書面に残している。又、遠方の方には救急搬送した場合の取り決めなどもしている。	重度化の対応や指針、看取りの指針や同意書、救急搬送時の情報提供事項を整備している。遠方の家族と具体的な連絡内容を確認し、宿泊の準備もある。5年前に看取りを経験し、今後も意向があれば看取りを支援する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で研修に参加出来ていないがマニュアルを確認したりその都度話をしたりしている。利用者の保険証ケースに一人一人の既往歴を記載した用紙を入れている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	命を守る行動(避難など)を優先する事は実際の避難でも学びスタッフ間で出来ている。糸田町役場から防災ラジオの配布もあった。	今年度は避難訓練の実施はないが、避難経験を活かし、調理の必要のないパン等を備蓄している。自家発電の備えもあり、区長に災害時の住民の避難受け入れを申し出ている。感染症や自然災害時のBCP策定にも着手している。	命を守る行動を実践するために、昼夜の避難訓練の実施やクラスター発生の貴重な経験が活かされたBPC策定に期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	異性の介助が苦手な利用者には要望を聞いて対応している。目上の方という観念を持ち対応するように努めている。	居室や廊下のソファで過ごす入居者に〇〇さんと氏名で呼称し、入居者ひとり一人に丁寧に話しかけている。訪室時は必ずノックや声かけを励行し、居室での食事の皿を置き換えたり、個別の洗濯を継続している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが決めるのではなく本人が選択できる言葉かけや対応の仕方を工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が自分も感覚やペースで過ごしている。洗濯や新聞折り等その時にやりたい事、出来る事を出来る様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品やローション、ヘアクリーム、カラーリング、散髪、訪問美容など多様面に渡って支援できるようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルス感染症に伴い現在は台所への出入りはできないが、お茶の時間のコップを洗って持ってこられたり食後の引き善など自分で出来る事を自らされている。食前食後の嗜好品など支援している。	現在も各居室での食事が継続しているが、手作りの温かい食事を楽しんでもらえるように支援している。ゆっくりテレビを見ながら食べられる方もいるが、嚥下や咀嚼に応じてミキサー食を用意し、夫々のペースで食べられるように介助したり、時には好きなプリンを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー、とろみ、きざみ、魚の骨取りなど個人に合わせた食事を提供している。蓋付きコップや水筒など本人重視した支援をしている。液体が飲みづらい方は家族と話し合いお茶をゼリーにし提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守りでできる方、準備が必要な方、介助の方など毎食後に実施している。又、訪問歯科を週1回利用し口腔内、義歯の衛生を保持している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	たまに失敗はあっても本人の希望により布パンツを使っている方はおられ夜間はポータブルトイレを使用している方、リハビリパンツを使用しているも日中共同トイレに誘導し排泄の促しをするなどこまめに取り組んでいる。	紙おむつやリハビリパンツ使用もあるが、トイレでの排泄を基本としている。見守りやトイレ誘導、夜間のポータブルトイレ使用により退院後の放尿や夜間の不穏が無くなり、リハビリパンツではあるが、1ヶ月半でほぼ元の生活になった入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、おやつに食物繊維を含む物や乳製品、果物など提供している。状態によっては内服薬を検討しスタッフ全員で取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は1日おきだが「入りたくない」「明日入る」等さまざまあるが、あくる日に入っている。二人介助の方は個別に支援しその方の為に入浴することもある。羞恥心の配慮し同性スタッフが対応する事もある。	浴室は二人介助ができる広さで明るく、脱衣室は季節柄寒暖差に配慮している。安全や安楽を重視し職員二人で介助する入居者もある。家族が好みのシャンプーやトリートメント、保湿剤などを持参したり、同性介助にも配慮し、入浴を楽しめるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下のソファや居室など好きな場所で昼寝をされたり、消灯時間の決まりは無く生活に支障が無い程度の夜更かしは良しと捉えている。不穏時は付き添い話を聞くなど安心して眠っていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用開始時に服薬管理ができていない方は主治医に連絡して把握している。退院後はサマリーに確認し受診時の変更時はミーティングなどで伝え個人記録に薬状を提示し副作用が出た時は主治医に連絡し指示を仰ぐなどしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染症に伴い野外活動が出来ていない為、食事の工夫をしなるべく季節の物を取り入れている。又、簡単なケーキやスイーツなども手作りし、嗜好品は個別に対応し近くのお店にスタッフと一緒にマスク着用にて出かけている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症が流行してからは遠足や外食は制限させてもらっている。近くのお店までの外出のみとし必ずスタッフと一緒に外出して頂いて家族と本人に理解して頂いている。	コロナ禍の収束も未だなく他の感染症も流行している昨今の状況から、外食等を控えている。自宅で家族と食事をと帰宅したが、仲たがいで早めにホームに帰って来た方もあり、ケアマネジャーが仲直りのきっかけを作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方以外の利用者は家族、本人スタッフと相談し所持する金額を決め(500円～3000円程度)又は必要に応じて事務所預り金の中からその都度渡すようにしスタッフも把握するようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも申し出により電話は掛けられるようにしている。又、携帯電話を所有している方もおられ使い方の支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体の掃除や空気清浄機の設置、共同トイレに消臭剤や換気を行っている。全体の湿度や臭いが気にならないように換気も行っている。	入居者手作りの花飾りが飾られたパーティションで仕切られた食堂や談話室は、空調を管理し高機能空気清浄器が設置され、入居者に馴染みの音楽が流れている。その周りに居室や浴室、トイレなどが配置され、廊下の所々に置かれたソファで寛ぐ入居者の姿がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム全体にソファなど設置し思い思いの場所でくつろげる様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を本人、家族と相談しながら配置しフローリングや畳の部屋がありベットや布団を選ぶ事が出来る。	居室で過ごすことが増えた入居者が気持ちよく寛げるようにと、清掃や整理整頓が行き届いている。お気に入りの家具やテレビを持ち込み、自分の生活に合わせた場所にベットを配置し、ベッドで布団にくるまりテレビを見て昼食後のひと時を過ごされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に合わせた居室作りをしている。カレンダーや時計などを準備し又、冷蔵庫などの家電を使われる利用者も居り自立した生活が送れるように支援している。		